



学校を支えてくださる方々とともに

◆ 学校運営協議会 ◆

昨年度までの「学校評議員会」が、今年度から「学校運営協議会」に改まりました。

学校運営協議会とは、地域と保護者、学校がともに知恵を出し合い、学校の運営と子ども達のために必要な支援について協議する機関で、飯豊町の小中学校は今年度から設置されました。保護者や地域住民の代表等で構成されています。

7月2日（金）、2校時の授業を参観いただいた後、町社会教育課より学校運営協議会についての詳しい説明がありました。さらに、協議として、学校運営や子どもを取り巻く状況について等、話し合われました。

主なご意見として、今後の会の運営について、通学路や登下校の安全確保について、地域・家庭・学校のいっそうの連携について、貴重なご意見をたくさんいただきました。

なお、子ども達の姿勢や挨拶のよさ、「交通安全ありがとう運動」がよくなされていることに、委員の皆様からお褒めの言葉をいただきました。

主体的に学ぶ子どもの育成に向けて、地域の子供達を地域と学校が相互に連携・協働して育てる、そのための大切な組織です。委員の皆様、ますますよろしくお願いいたします。

【学校運営協議会委員の皆様】（敬称略）

◎小松 一芳（東部地区公民館長）○尾形 隆（PTA会長）加藤 富夫（学校後援会長）
浅野 章（東部地区長会長）佐藤 芳栄（東部地区体育協会会長）遠藤理恵子（添川児童センター館長）
佐原 守（添川小歴代PTA会長会長）後藤 正美（交通安全協会飯豊東部支部長）
井上 勝見（地域学校協働活動推進員）

◆ いなほの子健全ネットワーク会議（通称：いなほネット会議）◆

学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応に取り組んでいますが、地域の関係者の方々にもご協力をお願いしており、それが「いなほネット会議」です。

6月15日（火）に開催された会議の中では、「子ども達は、マスクの中で、言葉の真意がお互いに伝わっているか」「学校、家庭、遊びの中で使うそれぞれの言葉、だいぶ違いがある」など、子ども達の言葉について、たくさんのご意見をいただきました。学校でも子ども達の指導に生かしてまいります。

【いなほの子健全ネットワーク会議に参加の皆様】（敬称略）

尾形 隆（PTA会長）横澤 剛（PTA副会長）横澤 寧子（PTA副会長）
山口 明美（東部地区民生児童委員代表）小松 弘子（主任児童委員）小松 一芳（東部地区公民館長）
中村 真代（子ども会育成会会長）

<お知らせ>

- 6月26日(土)は4年部会行事で親子サイクリング、7月3日(土)は6年部会行事で深山和紙漉きと親子レクリエーション、10日(土)は3年部会行事でいいで天文台見学でした。どの部会もたいへん充実した行事になりました。なお、23日(金)は5年部会行事でおらんだラジオ局の見学と出演の予定です。(1年部会と2年部会は延期。写真は3年部会。)



- 9月12日(日)の東部地区運動会は、正式に中止の決定がなされました。やむを得ないこととはいえ誠に残念でなりません。そこで今年も、添川小学校として感染症予防に配慮した運動会を9月10日(金)の午前中に実施する予定(予備日13日)で準備を進めておりますので、よろしくお願いいたします。

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために(その17)

手伝いは家族を結びつけます

手伝わせる、ということは、子どもを労働力の一部として親が勝手にこき使い、親が楽をするなどということとはまったく別です。

手伝いを通して、子は経験豊かな親からさまざまなことを学んでいくのです。そういうときの親の指導は具体的で、わかりやすく、そしてそのとおりにやれば、確かにうまくいくのです。子どもは、そういうことを通して親に敬愛の念を持つのだと思います。

一方、親の方は、教えればそれによって伸びていく子どもの仕事ぶりを頼もしく、嬉しく、また可愛く思うことでしょう。いっそうよく子どもにいろいろなことを教えていこうと考えることでしょう。子どもの仕事は、時に大人の一人前ほどの働きをすることがあります。

たとえば、テーブルをふくこと、ごはんやみそしるをよそうこと、あるいは庭をはくこと、お風呂を沸かすこと、洗濯物をたたんで分類し、それぞれの棚にしまうことなどは、大人がやっても子どもがやってもまったく同じ能率、同じ作業、同じ出来映えです。

このような仕事を子どもが手伝ってくれば親は本当に助かります。子どもの働きに感謝し、ありがたく思うことでしょう。親が子どもに感謝する、子どもが親から感謝されるということは、とてもすばらしいことです。手伝いを通してそのような感情が親子の間に通うようになります。

子どもに家事その他の仕事も手伝わせようとしなないこのごろの風潮は、確かに子どもを労働から解放しはしましたが、反面、親子のきずなを弱いものにし、親子の感情の交流を薄いものにしてはいないでしょうか。手伝いをさせないということが、必ずしも子どもにとっても親にとってもプラスではなく、かえって親と離れる子どもを作ることになってはいないでしょうか。ゆっくりとふり返って考えてみたいことです。

『優しく鍛える—自立をめざす子育て—』(野口芳宏著、明治図書)

千葉大学附属小学校等で活躍された国語科教育と家庭教育の第一人者というべき先生の著作で、私は若い頃、この本を読みました。そして、私も子育てをするようになり、下線部に特に共感を持ちました。

楽しいイベントに親子で出かけて楽しかった、お金をかけて親子で楽しいことをした、確かにそれらも素晴らしい親子の感情交流だと思います。しかし、野口先生と同様に、私も手伝いを通した親子の感情交流を大切にしたいと考えています。我が家では、ジャガイモの植え付け、ハクサイやコマツナ等の種まき(老眼のため助かります)、施肥、収穫、草むしり、玄関掃除、側溝の泥上げ、障子紙の貼り替え、親戚への礼状書き等。本当に助かるので、アイスを食べながら子ども達は大いに褒められますが、中学校になると忙しくてなかなか大変。小学生のうちがいい時期なのかなと思っています。